

〈指導援助の実践例〉

○ S S Tの構成要素

構成要素は、中心的に「処理」を取り上げる。

○ 集団としての到達目標

集団としての到達目標は、「社会的場面を理解する」ことと、「問題解決の見通しを立てる」の2つとし、野外炊飯の役割分担の場面で、役割分担を適切に行う社会的スキルを訓練し、実際の場面に応用できるようにする。

○ 参加者

児童生徒側は、A男（小学校6年）、B男（中学校2年）、C男（中学校3年）、D男（中学校3年）の4人とする。

指導援助者側は、リーダー（T1）、サブリーダー（T2）の2人とする。

○ 場所は、福島県海浜青年の家キャンプ場とする。

〈指導援助の実際〉

○ 内容の説明

C男を中心にして、野外炊飯の役割分担を行った場面で、話し合いの技術が未熟なために、役割分担の話し合い活動が停滞した。

・T1 「今、野外炊飯の役割分担の話し合いがうまくいかず、困ってしまったね。」

・C男 「僕の進め方が悪いんです。」

・T2 「悪い人は、誰もいないんだよ。」

○ 問題場面の設定

・T1 「A男君、役割分担がうまくいかなかった気持ち、どうだったかな？」

・A男 「いやな気持ち、でも、どうしていいか分からなかった。」

・T1 「みんなも同じ気持ちかな？」
(全員にうなずきがみられた。)

・T2 「じゃあ、こんな時どのようにしたらいいか、みんなで考えてみよう。」

○ 予行演習のロールプレイング

・T1 「考えが違った場面は、どんなふうだったのかなあ？C男君とA男君、もう一度その

場面を振り返って、やってくれない。」

(C男とA男は、考えが違った場面を思い出しながら、ロールプレイングで再現した。)

・C男 「これ、お前やれよ。」

・A男 「えー、僕できないよ。」

・C男 「そんなことねえよ、やれよ、お前！」

・A男 「やだよ！僕、やだよ！」

○ 正のフィードバック

○ 改善すべき点の明示

・T2 「いやな気持ちにしてごめんね。」

・T1 「役割分担を決めるような話し合いの場合、相手の気持ちになって発言することは大切だね。今の二人の会話の中で、相手の気持ちになって発言したい言葉はどれだろう。気づいたら挙げてくれないか。」

・D男 「『お前』を、名前と呼ぶ。」

・T1 「なるほど、それはいいね。」

・T2 「そのほか、あるかな？」

・B男 「『やだよ』は、相手を無視する感じがする。」

・T2 「えー、そう感じたんだ。」

・A男 「でも、『やれよ』って、一方的に言うんだもん。」

・T1 「そうだね、相手の考えも聞かないといけないね。」

・T2 「この辺で、相手の気持ちを考えた表現について、みんなで考えてみよう。」

○ モデルロールプレイング

(T1、T2の指導援助者がモデルとなりロールプレイングを試みる。)

・T1 「これ、やってくれないかなあ！」

・T2 「嫌だなあ、僕、それできないよ。」

・T1 「そうだね、大変だから。でもA君にやって欲しいんだ。僕も協力するからやろうよ。」

・T2 「本当？そうだったらいいよ。」

・T1 「もちろんだよ。」

○ 新たな行動のロールプレイング

(T1、T2の指導援助者を相手に、全員が一人ずつロールプレイングをする。)